



### (1) システム理工学部生命科学課程 スポーツ工学コース

システム理工学部生命科学課程では、現行の生命科学科から引き継ぐ「生命科学コース」「医学工学コース」に加え、新たに健康な人のさらなる健康を追求する「スポーツ工学コース」を開設する。スポーツ工学で人々の可能性を拓き、健康寿命をデザインすることを目指す。少子高齢化を背景に人々の医療・福祉への関心が高まる中、QOL（Quality of Life）向上とウェルビーイングの実現を目指し、ヒトの心身機能を発展・拡張させるための手法を創出し活用することで、人々の健康増進に貢献できる人材を養成する。

### (2) 女子高校生対象サマー・インターンシップ

女子生徒が研究室に配属され、担当教員や大学生、大学院生とともにテーマ設定から研究、発表まで行う。25年は8校から94人が参加した。

### (3) 理工系女子特別入学者選抜

理工学分野に強い関心と学ぶ意欲を持ち、高校時代の数学と理科の成績、英語資格が一定以上の女子生徒が出願できる。工学部の先進国際課程を除く全学部・コースで実施され、募集枠は全学で124人。

### (4) 理工系女性技術者支援奨学金

「理工系女子特別入学者選抜」による入学者全員と、一般入学者選抜で成績優秀な女子入学者（100人以上）を対象に入学金相当額（28万円）が支給される。

### (5) 国際プログラム

入学後に申請し、審議を経て国際プログラム生として認められる。1セメスター以上の海外留学が必須で、卒業に必要な単位の4分の1以上を英語開講科目で取得し、卒業研究を英語で行う。

### (6) 先進国際課程

授業はすべて英語で開講され、入学時から指導教員と異なる専門分野から集結した多国籍のアドバイザー教員の指導のもと、最先端の研究に取り組む。研究成果は卒業までに1回以上、国際会議で発表することを目指している。

### ■ 朝日に輝く奨学金

一都六県以外の出身で、一般入学者選抜において優秀な成績を収めた入学者に、1人あたり年間110万円を最大4年間給付する。優秀な人材が経済的理由により首都圏への進学を諦めることなく、実質国立大学並みの授業料負担で学修できるよう、本奨学金制度を整備するに至った。

## 2026年度からシステム理工学部は課程制に移行

### 現5学科

### 5課程11コースへ



に就任した芝浦工業大学。100周年を迎える27年度に目標を設定した「女子学生比率30%」の実現に向けた取り組みも進んでいます。25年度の入学者に占める女子学生比率（学部生）は27・8%で前年から1・2ポイント上昇するなど、確実にその成果を上げています。

今後、理工系女子を取り巻く環境をよりよくしていくためには、まずその分母を増やすことが重要です。そのためには女子学生の比率を増やし、ロールモデルとなる卒業生を輩出することが喫緊の課題です。同大では、「女子向けミニオープンキャンパス」の開催や、女子高校生向けサイト「SWITCH」での発信、研究室体験ができる「女子高校生対象サマー・インターンシップ」など、理工系分野に触れることができるさまざまな取り組みを行っています。

また、入試では「理工系女子特別入学者選抜<sup>(3)</sup>」を実施し、22年度に導入された「理工系女性技術者支援奨学金<sup>(4)</sup>」と合わせて、女子の進路選択を応援しています。

さらには、グローバル化への積極的な取り組みも芝浦工業大学の特長です。全世界約50カ国の国と地域から200校を超える海外提携大学と交流しており、多くの学生が留学し、また留学生の受け入れも積極的に行っています。

中でも、協定校に赴いて、あるいは協定校から学生を招いて、専門分野に関連したテーマでプロジェクトチームを組み、英語で議論しながら課題解決に取り組む「グローバルPBL」は全学で展開しており、年間80本ものプログラムが進行しています。また、17年度からシステム理工学部で実施されている「国際プログラム<sup>(5)</sup>」や、20年度から工学部に設置された「先進国際課程<sup>(6)</sup>」など学部独自の取り組みも進められ、グローバル理工系人材育成に向けた教育環境が整備されています。

### 全国トップクラスの「就職力」 学生満足度も過去最高に

芝浦工業大学は、就職力の強さでも全国トップクラスの実力を誇ります。



やま だじゅん  
山田純学長

1982年東京工業大学工学部生産機械工学科卒業。88年同大学院理工学研究科博士課程中退。専門は熱工学、光工学。東京工業大学工学部助手、山梨大学工学部助教授、ケンタッキー大学客員准教授、芝浦工業大学教授、同大学工学部長などを経て2021年より現職。

1927年創立の芝浦工業大学は、建学の精神である「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」のもと、戦中・戦後の混乱期から日本の理工学教育を先導し、数多の優秀な技術者を輩出してきました。常に変化し続ける社会と向き合い、技術によって未来を担う人を創る教育は、産業界からも高く評価されています。

創立100周年を迎える2027年にアジアの工科大システムトップ10に入ることを目標に掲げ、大学改革に取り組んでいます。24年度の工学部の課程制への移行に続き、25年度にはデザイン工学部が3コース制へとリニューアル。26年度にはシステム理工学部の課程制移行も予定されており、その歩みを進めています。

# 芝浦工業大学

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5 入試・広報部入試課 TEL 03-5859-7100 <https://www.shibaura-it.ac.jp/>

### 次なる100年に向け、 新たに3つの学部がリニューアル

芝浦工業大学は、創立者である有元史郎が1927年5月に開いた「東京高等工商学校」を前身としています。有元が自身の論文「非科学的教育の提唱」に記した「特色ある専門教育を施し以って実社会に貢献せんとする」という「実主義」の宣言は、建学の精神「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」として受け継がれています。

開学から約1世紀、2027年に迎える100周年に向けて、さまざまな改革が進められています。24年度には工学部が従来の学科制から課程制へ移行。9学科1コースを6課程9コースに再編し、分野横断型の学びを促すカリキュラムへと生まれ変わりました。続いて25年度には、デザイン工学部がコース制へとリニューアル。2つの系を拡充・再編し、「社会情報システム」「UX」「プロダクト」の3コースが誕生しました。さらに、26年度には、システム理工学部が課程制へと移行。現状の5

学科6コースを5課程11コースに再編します。

進む社会の変化に柔軟に対応するため、26年4月に既存の5学科を「情報」「機械・電気」「建築・環境」「生命科学」「数理科学」の5課程11コースに再編（左ページ図参照）。専門性と横断性を両立した教育・研究を展開します。またその中で、「スポーツ工学コース<sup>(7)</sup>」という新分野にも進出します。

各コースのカリキュラムは、専門科目を「モジュール」として体系化します。モジュールとは、「○○ができる人材になる」という目標を実現するために必要なスキルをまとめた科目群のこと。たとえば、建築コースの学生が「健康や福祉に関連した建物に関わる技術者になりたい」と考えたときに、自コースの建築学を学ぶのと並行して、人々の健康増進の視点から「スポーツ工学コース」のモジュールを選択する、という学び方ができるようになります。これにより自らの志向や希望に応じた学修が可能なのです。この組み合わせにより、専門性の強い「主専攻型」、分野横断性のある「副



2026年完成予定の新校舎

専攻型<sup>(8)</sup>、留学を前提にした「主専攻（国際）型<sup>(9)</sup>」、教職課程を組み込んだ「副専攻（教職）型」など、学生と教員がモジュール間を自由に行き来することで化学反応が起こり、従来の学科制では難しかった個性ある自由度の高い学びのデザインが可能となります。

そして、今回の改組のもう一つの柱が「学際科目」です。キャリアデザイン、システム工学、SDGs、アントレプレナーシップの科目群からなり、専門科目を広げる知識と方法を身につけ、自身の学びをアップデイトしていく起点をつくります。

さらに、26年春には大宮キャンパスに新校舎がオープン予定で、体育館などのほか、「思考する・着想」「かたちにする・試作」「対話する・議論」「表現する・プレゼンテーション」の4エリアで構成されるラーニングコモンズも設置。『迷うから、遠くに行けるんだ。』という今回の学部改組のキャッチフレーズにふさわしい新たな学びの場が始動します。

### ダイバーシティの推進と グローバル理工系人材育成に注力

2023年2月にシステム理工学部の磐田朋子教授が初の女性副学長

です。今年7月に大学通信が公表した『有名企業400社実就職率ランキング』でも41・2%と、卒業生数1000人以上の私立大学で3位に

ランクイン。学部生・大学院生問わず、就職率は例年ほぼ100%を達成。とりわけ、理工系分野における女性人材の活躍への期待が高まる中、女子学生の就職率は前年度に学部卒で100%を達成したのに続き、今春は大学院卒（修士課程）を含め100%を達成しました。

こうした実績を支えるのが充実したキャリア支援です。入学時のアセスメントテストでの社会人基礎力診断による「自身の強み・弱みの把握」から始まり、年間100件を超える就活イベントを実施。そのほかにも、求人やインターンシップ、各企業の採用実績、先輩たちの選考体験談などを集約した独自の就活支援システム「CAST」によるサポート、常駐する専門のキャリアコンサルタントによる個別相談などにより、学生の進路満足度は90・7%、キャリア支援体制満足度も91・2%と過去最高の満足度を獲得しています。



多様な視点からイノベーション創出を目指す